



## サントリーグループの理念

「水と生きる」は、企業理念に基づく私たちの思いを広く社会と共有するための言葉です。地球にとって貴重な水を守り、水を育む環境を守るとともに、社会に潤いを与え続ける企業を目指し、新たな価値の創造に挑戦しています。

サントリーグループの約束

# 水と生きる

サントリーグループの理念体系



### わたしたちの使命

#### 『人と自然と響きあう』

わたしたちは常にお客様を見つめ、お客様の求めるものに応えます。商品やサービスを通じてお客様の生活文化を潤い豊かなものにしていきます。そして、商品の源泉である自然の恵みに感謝し、恵みを生み出す自然の生態系が健全に循環するように力を尽くします。人々の生活文化を潤い豊かにすることと、自然環境を保全することが互いに矛盾せず、幸福な相互関係で結ばれ、永く持続していく社会づくりに貢献すること、それがサントリーグループの使命です。

## わたしたちの志

### 『Growing for Good』

わたしたちは、この社会のために“Growing”＝成長しつづけます。成長しつづけることで、よりよい社会づくりに貢献する力も、自然環境を守る力も大きくしていきます。そのためには革新的な取組みに情熱を注ぎ、新たなチャレンジをつづけなければなりません。挑戦の先にあるのは、いまよりもっと誠実で、信頼される企業。そんな“Good”な企業に向かって成長しつづけること。これがサントリーグループの志です。社員一人ひとりもまた、仕事への情熱と挑戦意欲を忘れず、“Good”＝誠実で信頼される人間として、成長しつづければなりません。

## わたしたちの価値観

### 『やってみなはれ』

サントリーグループの歴史をつくってきたのは、常に果敢なチャレンジ精神でした。誰もやらなかったことに挑む。常識を疑い視点を変え、考えぬいて、ひたむきに行動する。失敗や反対を恐れず、ひたすら挑戦しつづける。新しい市場創造も、新たな価値提供も、そんな情熱から生まれました。『やってみなはれ』は、現在も未来も、わたしたちの事業の原動力となる価値観です。

### 『利益三分主義』

わたしたちの事業は、お得意先やお取引先、そしてこの社会のおかげで成り立っています。だから、事業で得た利益は、「事業への再投資」にとどまらず、「お得意先・お取引先へのサービス」や「社会への貢献」にも役立てていこう。そんな思いを言葉にしたのが『利益三分主義』です。「おかげさまで」の心で、事業の成功をステークホルダーや社会全体と分け合い、互いに発展・成長していける関係づくりに全力を注ぐこと。これもまた、サントリーグループ不変の価値観です。

## サントリーグループWay

サントリーグループがユニークな価値をお届けすることで、お客様から選ばれ、愛され続けるために、従業員一人一人が日々実践してゆく「サントリーらしい」行動のあり方を定めています。

## サントリーグループ企業倫理綱領

サントリーグループが社会に対して責任を果たし、信頼をいただくために、大切にしなければならない基本姿勢を定めています。

## 水と生きる

「水と生きる」は、わたしたちサントリーグループがお客様はもちろんのこと、地域社会や自然環境と交わす約束の言葉です。

### 自然への思い ～水とともに生きる～

お客様に水と自然の恵みをお届けする企業として、貴重な共有資源である水を守り、水を育む自然環境を次世代につないでいく。

### 社会への思い ～社会にとっての水となる～

水があらゆる生命の渇きを癒し、潤いを与えるように、お客様や社会にとって価値ある商品やサービスを通じて、人々の豊かな生活文化の創造に貢献していく。

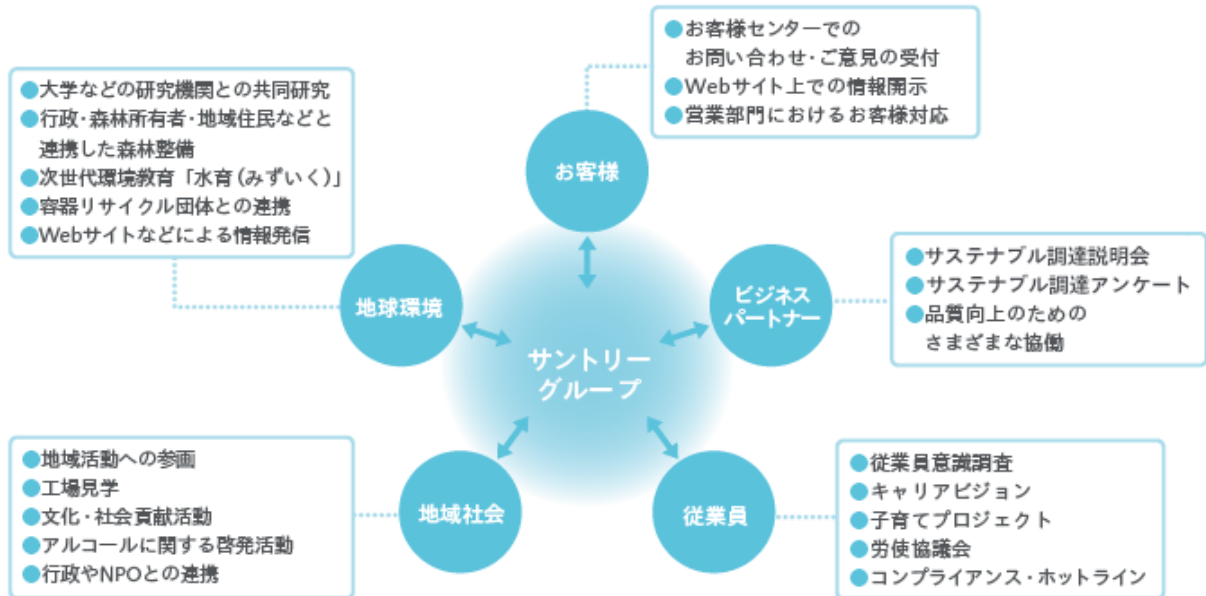
### わたしたち自身への思い ～水のように自在に力強く～

すべての社員が水のように柔軟に常に新しいテーマに挑戦し、新たな価値を創造する企業であり続ける。

これら3つの約束を果たすために、わたしたちは日々の行動を積み重ねていきます。

## ステークホルダーとの関わり

サントリーグループの事業活動は、多様なステークホルダーとの関わりの中で進められています。持続可能な社会の実現に貢献する企業であり続けるために、私たちはステークホルダーへの責任を明らかにするとともに、さまざまなコミュニケーションを実施。いただいたご意見や社会のニーズを企業活動に反映し、高い信頼関係や協働関係を継続的に築いていくことを目指しています。



ステークホルダーとのコミュニケーションの機会

## サステナビリティ 4つの取り組み

サステナビリティの考え方をベースに、よりサントリーグループらしい社会的責任を果たしていくため、2011年からISO26000を活用したCSR活動を推進しています。CSR活動の現状把握と課題抽出・認識の共有を行い、7つの中核主題ごとにステークホルダー・エンゲージメントを実施しました。

この結果をもとに、グローバルな社会課題や事業課題の中から、ステークホルダーからの期待・関心度が高く、また、サントリーグループにとって重要度が特に高い課題を抽出した上で、企業理念「人と自然と響きあう」の実現に向けて、これらの課題の整理を行い、4つの取り組みにまとめました。今後も私たちサントリーグループは企業理念に基づく活動の実践を通じて、社会的な責任を果たすとともに、持続可能な社会の実現を図りながらグローバルに成長する、「Growing for Good」な企業を目指して革新と挑戦を続けてまいります。

### ■ (1) お客様・お取引先と響きあう／商品・サービス

#### 最高品質の商品・サービスでお客様に感動をお届けするために

お客様の声を広く企業活動に反映させるとともに、サントリー品質方針「All for the Quality」のもと、バリューチェーン全体で品質の維持・向上に取り組んでいます。また、サステナブル調達やアルコール関連問題にも積極的に取り組んでいます。

### ■ (2) 自然と響きあう／環境

#### 限りある水や資源を、次の世代に引き継ぐために

持続可能な豊かな地球環境を次世代に引き継ぐべく、「環境ビジョン2050」を定め、「自然環境の保全・再生」「環境負荷低減」の2つの軸で、グループ全体での環境経営を推進していきます。

### ■ (3) 社会と響きあう／文化・社会貢献

#### 地域に根ざした活動で、明るい未来を築くために

創業の精神「利益三分主義」に基づき、「芸術・文化」「スポーツ」「社会福祉」の分野を中心に、「次世代育成」「被災地支援」「地域貢献」など、時代を見つめた文化・社会貢献活動に継続的に取り組んでいます。

### ■ (4) 従業員と響きあう／ダイバーシティ経営

#### 世界へと夢を広げる、多彩な人材を育てるために

「ダイバーシティ経営」を人事の基本方針とし、新たな価値創造に挑戦する「人材育成」と従業員一人ひとりが最大限に力を発揮する、創造性あふれる「職場環境づくり」を目指しています。

## 国連グローバル・コンパクトに署名

サントリーグループは世界人権宣言や国連のビジネスと人権に関する指導原則など国際規範を支持するとともに、国連が提唱する「人権・労働・環境」についての普遍的な原則を提唱する「国連グローバル・コンパクト」（以下10原則）に署名しています。

- 1.企業は、国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重すべきである
- 2.企業は、自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである
- 3.企業は、結社の自由と団体交渉の実効的な承認を支持すべきである
- 4.企業は、あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持すべきである
- 5.企業は、児童労働の実効的な廃止を支持すべきである
- 6.企業は、雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである
- 7.企業は、環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持すべきである
- 8.企業は、環境に関するより大きな責任を率先して引き受けるべきである
- 9.企業は、環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである
- 10.企業は、強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである



2017年には、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンのヒューマンライツデューデリジェンス分科会に参加し、労働慣行に関する国際的な動向について知見を深めました。今後もグローバルでサステナブルな事業を推進していく上で、国際的な規範を遵守し、社会的責任を果たしていくことが、サントリーグループの使命であると考えています。

## The CEO Water Mandateに署名

サントリーグループは、水の持続可能性に関して企業の発展・実践・情報開示を支援する「国連グローバル・コンパクト」のイニシアチブであり、水資源問題のグローバルプラットフォームである「The CEO Water Mandate」に署名しています。



# The CEO Water Mandate



# ISO26000を活用したCSR活動のステップアップ

CSRの考え方をベースに、よりサントリーグループらしい社会的責任を果たしていくため、2011年からISO26000を活用したCSR活動を推進しています。CSR活動の現状把握と課題抽出・認識の共有を行い、7つの中核主題ごとにステークホルダー・エンゲージメントを実施しました。

この結果をもとに、グローバルな社会課題や事業課題の中から、ステークホルダーからの期待・関心度が高く、また、サントリーグループにとっての重要度も高い項目を特に注力すべきCSR重点課題として2013年に特定し、策定した行動計画に基づいてグループ全体で活動を推進しています。

## CSR活動推進のプロセス



## CSR活動の現状把握

### ■CSR全体会議を開催

サントリーホールディングス（株）CSR推進部を中心に、CSR関連の主要部署※から代表者約40名が集まり、ISO26000についての理解を深めるとともに、今後のステークホルダー・エンゲージメントのプロセスを確認・共有しました。

※サントリーホールディングス（株）CSR推進部、品質戦略部、総務部、法務部、コンプライアンス室、人事部、エコ戦略部、サントリービジネスエキスパート（株）SCM本部、お客様リレーション本部



CSR全体会議の様子

### ■ISO26000のセルフチェックシートを用いてCSR活動の棚卸しを実施

ISO26000の中核主題ごとに設定されている「関連する期待および行動」の約250項目について、関連部署がセルフチェックシートを用いて対応状況を評価し、サントリーグループの課題を洗い出しました。



ISO26000のセルフチェックシート

## サントリーグループの課題の認識と共有

### ■中核主題ごとに関連部署が集まり重要課題を議論

7つの中核主題ごと<sup>※</sup>に関連する部署が集まり、今後サントリーグループが優先的に取り組むべき重要課題を議論しました。

※人権と労働慣行については、相互に関連性が高いことから2つのテーマを同時に議論しています



人権・労働慣行をテーマにした議論の様子

## 有識者と重要課題を確認

### ■中核主題ごとに社外有識者と第1回意見交換会を開催

社内で議論した中核主題ごとの重要課題について、2012年3-4月に社外有識者と意見交換会を実施し、確認しました。継続的に意見交換会を実施していくことで、さらなるステップアップにつなげていきます。

## 重点課題の特定

ステークホルダーからの期待・関心度と、サントリーグループにとっての重要度から、優先的に取り組む6つのCSR重点課題を特定しました。

### 6つのCSR重点課題

- お客様第一に安全・安心で健康に貢献する高品質な商品・サービスの提供
- 「水のサステナビリティ」の追求と環境負荷低減による自然との共生の実現
- 「利益三分主義」に基づく生活文化の豊かな発展と次世代育成への貢献
- 「やってみなはれ」を発揮できる人材育成とダイバーシティ推進
- サプライチェーンを通じたCSR活動の推進
- 酒類を扱う企業として責任あるマーケティングと適正飲酒の普及と啓発

### ■①お客様第一に安全・安心で健康に貢献する高品質な商品・サービスの提供

サントリーグループは事業領域の拡大とグローバル化が加速する中、“安全・安心で健康に貢献する高品質な商品・サービスを提供する責任”が一層重みを増しています。

サントリーグループは、品質方針「All for the Quality」のもと、「サントリーグループ品質保証規定」を設けて、商品・サービスの企画・開発から水や農産物、包材などの原材料調達、製造、流通、販売・サービスに至るすべてのプロセスで品質の維持・向上に取り組んでいます。

さらに、常にお客様視点での品質保証を心掛け、「飲用時・飲食時品質<sup>※</sup>の向上」をキーワードにVOC（Voice of Customer：お客様の声を経営施策に反映する活動）に積極的に取り組んでいます。

これからもサントリーグループは、品質方針をグループ全体に浸透させ、グローバルで一体化した品質保証を実現するとともにし、これからも世界各地のお客様との対話しをもとに、高品質な商品・サービスの提供を通じて、お客様に新しい感動や喜びを提供していきます。



## ■②「水のサステナビリティ」の追求と環境負荷低減による自然との共生の実現

サントリーグループの事業の多くは、水や農作物など、かけがえのない自然の恵みによって支えられています。「人と自然と響きあう」という企業理念のもと、環境経営を推進し、持続可能な豊かな地球環境を次世代に引き継ぐことは、私たちの大切な責務です。「水と生きる」企業として、「水のサステナビリティ」実現のために、水を育む森を守り、水を大切に使い、きれいにして還す活動を推進しています。

また、工場での省エネ・節水、容器包装の軽量化、自動販売機の省エネルギー化などを通して、環境負荷を低減するさまざまな活動を続けています。

サントリーグループの環境経営に、より明確な方向性を与えるため、2014年1月に「環境ビジョン2050」を策定し、「2020年目標」を掲げました。「自然環境の保全・再生」「環境負荷低減」の2つの軸で、グループ全体で環境経営を推進していきます。

## ■③「利益三分主義」に基づく生活文化の豊かな発展と次世代育成への貢献

サントリーグループは、事業で得た利益は「事業への再投資」や「お得意先・お取引先へのサービス」として活用するだけでなく、「社会への貢献」にも役立てたいという創業者・鳥井信治郎の「利益三分主義」の精神を、世代を超えて受け継いでいます。

創業以来、その時々々の社会課題をふまえながら、社会福祉・教育・災害支援などの地域貢献から、芸術・学術・地域文化の振興、スポーツ支援、次世代育成などに至るまで、多様な文化・社会貢献活動に取り組んできました。

そして、事業活動のグローバル化が進展する中、持続的な成長を目指すためには、お客様・お取引先・従業員をはじめとする世界中のステークホルダーとの共生を図っていくことがますます重要になっています。サントリーグループは、世界各地のグループ会社との連携をさらに深め、「文化・スポーツ」「次世代育成」「社会福祉」の分野を中心に、各国・各地域の実情に沿った活動を推進し、生活文化の豊かな発展と次世代育成に貢献していきます。

## ■④「やってみなはれ」を発揮できる人材育成とダイバーシティ推進

サントリーグループは、「やってみなはれ」に象徴される“チャレンジ精神”をもとに酒類や清涼飲料にとどまらず、健康食品・外食・花などさまざまな事業分野を開拓しながらグローバルな事業展開を加速しています。人材の多様性を推進し、多様な価値観や発想を取り入れ、活かすことにより、より大きな価値を創出する「ダイバーシティ経営」を人事の基本方針としています。

現在のサントリーグループにとって最も重要な課題は、新たな価値創造に挑戦する「人材育成」と従業員一人ひとりが最大限に力を発揮する、創造性あふれる「職場環境づくり」です。

上司と従業員の定期的な対話を通じて、個々人の果たすべき役割・目標を設定するとともに、個々の成長につなげています。

また、失敗をおそれず、より高い目標にチャレンジする人材を評価するしくみも構築しています。

## ■⑤サプライチェーンを通じたCSR活動の推進

お客様に高品質な商品やサービスを安定的にお届けするためには、ビジネスパートナーとの連携が必要です。また、コンプライアンスや人権・環境などに対する企業への要請が世界的に高まってきており、グループ会社だけでなく、サプライチェーン全体でのCSR活動の推進が求められています。

サントリーグループでは、事業を通じた持続可能な社会の実現に貢献するため、ビジネスパートナーとの公正・公平な取引を徹底するとともに、サプライチェーン全体において期待される社会的責任を果たしていくことが重要だと考えています。そのために、法令遵守、人権・労働基準、品質、環境、情報セキュリティ、社会との共生の6項目を柱とした「サントリーグループCSR調達基本方針」を制定し、CSR調達の取り組みを推進しています。

## ■⑥酒類を扱う企業として責任あるマーケティングと適正飲酒の普及と啓発

古来から世界のさまざまな地域の気候や風土に根ざしてつくられてきたお酒は、日々の暮らしに喜びや潤いをもたらすとともに、人生の節目である祝事・慶事などでも大きな役割を果たしています。

しかしその一方で、アルコール飲料の不適切な飲用は、未成年者飲酒、飲酒運転、アルコール依存症など、社会の中でさまざまな問題を生み出していることも事実です。サントリーグループは、グローバルに事業を展開する総合酒類食品企業として、これらの課題の解決に積極的に取り組んでいく責任があります。

適正飲酒に関する「基本理念」「行動指針」を策定し、専門組織を設けて社内外への適正飲酒の啓発、販売・宣伝活動の社内チェック、研究機関への参加・協力・支援を継続しているほか、業界やWHO（世界保健機関）と協働して、国内外でさまざまな取り組みに参画しています。

## サステナビリティ行動計画の策定・実行

6つのCSR重点課題のそれぞれのテーマに基づく中期目標とアクションプランを策定し、グループ全体で活動を推進しています。

# サステナビリティ行動計画

## お客様・お取引先と響きあう商品・サービス

目標達成：●●● 目標達成70%以上：●● 目標達成70%未満：●

### ■お客様第一に安全・安心で健康に貢献する高品質な商品・サービスの提供

重点項目	中期目標	2020年度の実績	評価	2021年度アクションプラン
お客様視点に基づく品質保証	お客様からのより一層の信頼向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>お客様の声から品質課題を抽出し、品質改善につなげた。</li> <li>フードバンク活動を継続した。</li> <li>食品安全を推進するGFSI活動に参画した。</li> <li>品質保証勉強会を計画的に実施した。</li> <li>お客様やお客様対応者への品質保証に関する取組みや情報を啓発する品質サポートツールの見直しと、さらに活用頻度の高い情報のサポートツールを新たに作成した。</li> </ul>	●●●	<ul style="list-style-type: none"> <li>お客様の声をさらにスピーディーに解析して品質課題を抽出し、速やかに品質改善につなげていく。</li> <li>フードバンク活動を継続する。</li> <li>食品安全を推進するGFSI活動への参画を継続する。</li> <li>お客様の信頼獲得に向け、引き続きお客様対応者の対応スキルの維持・向上を図るべく、社会の要望に応える品質情報の充実・啓発に取り組む。</li> </ul>
	グループ全体の品質保証体制強化とシナジー発揮	<ul style="list-style-type: none"> <li>「安全・安心の総点検活動」をグループ全体で推進した。</li> <li>海外のグループ会社で、Suntory MONOZUKURI Valus (SMV) への理解が深まるようダイレクト・コミュニケーションを行なった。</li> <li>海外のグループ会社で、「SMVに基づいた活動」を展開した。</li> <li>海外のグループ会社に、グループ品質マネジメントシステムと品質スタンダードに則った活動を展開した。</li> <li>グローバルな法規情報・リスク情報を海外グループ会社とタイムリーに共有した。</li> <li>国内外のグループ会社に対して品質課題解決のための技術支援を実施。</li> <li>用水および生物学的安全性品質スタンダードの定着化を図った。</li> </ul>	●●	<ul style="list-style-type: none"> <li>「安全・安心の総点検活動」をグループ全体で継続して推進していく。</li> <li>海外のグループ会社で、Suntory MONOZUKURI Valus (SMV) の理解とSMVに基づいた活動がさらに推進されるようダイレクト・コミュニケーションを行なう。</li> <li>海外のグループ会社に、グループ品質マネジメントシステムと品質スタンダードに則った活動を引き続き展開する。</li> <li>グローバルな法規情報・リスク情報を海外グループ会社とタイムリーに共有し、早期対応できるしくみをさらに強化していく。</li> <li>各社の状況に応じた技術支援施策を講じ、グループ全体の品質リスク低減の活動を推進する。</li> </ul>
お客様とのコミュニケーション	お客様の声をこれまで以上に広く深く聞くことによるお客様との関係性の深化	<ul style="list-style-type: none"> <li>電話対応ならびにメール対応の外部診断の実施と改善活動PDCA強化</li> <li>対応スタッフの対応品質向上のための教育研修の実施</li> <li>アクティブサポート(SNSを活用したお客様サポート)の拡充</li> </ul>	●●●	<ul style="list-style-type: none"> <li>お客様センターの対応品質向上に向けた継続的活動強化</li> <li>外部診断等の客観的な対応品質評価とその結果によるPDCA活動の推進</li> <li>対応スタッフの対応品質向上のための教育研修や勉強会の実施</li> <li>営業拠点を中心に「お客様対応推進リーダー」を配置・実働</li> <li>お客様センター HPを通じた情報提供の拡充</li> <li>デジタル進化に伴うお客様との新たなコミュニケーション方法の研究・開発</li> </ul>

<p>お客様の声を企業活動へ反映</p>	<p>お客様の声を商品・サービスに活かすしくみの拡充と国内外全グループへの浸透</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品化各プロセスにおけるお客様視点での事前評価活動の実施</li> <li>お客様の声を経営や商品化へ活かすVOC活動の拡充（商品開発関連部門との定期的なVOC会議の実施や営業部門との連携強化）</li> <li>全社員を対象としたセミナーの実施</li> </ul>	<p>●●●</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>VOC活動をバリューチェーン全体により広く反映</li> <li>お客様の声を活かした商品・サービスの改善</li> <li>全社員を対象としたセミナーの継続実施</li> </ul>
----------------------	---	---	------------	---

■酒類を扱う企業として責任あるマーケティングと適正飲酒の普及と啓発

重点項目	中期目標	2020年度の実績	評価	2021年度アクションプラン
<p>責任あるマーケティングの実践</p>	<p>ARS観点からの不適切な酒類マーケティングの防止 ※ARS: Alcohol Responsibility and Sustainabilityの略</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関連部署との情報共有・会議の開催</li> <li>新任マーケティング担当者へ向けた勉強会の実施</li> <li>過去事例のデータベース化</li> </ul>	<p>●●●</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な会議開催・振り返り等により社内ステークホルダーからの共通認識獲得</li> <li>業界動向・事例セミナー・自主基準等の共有機会を通じ、社内ステークホルダーのARS知識を深化</li> </ul>
<p>アルコール関連問題の予防と適正飲酒啓発</p>	<p>消費者・社員に対する適正飲酒の普及・啓発</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデレーション広告の継続実施、SNSやデジタルサイネージを活用した広告実施</li> <li>社員7千人に向けた適正飲酒e-ラーニングやアルコール体質チェックを実施</li> </ul>	<p>●●●</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデレーション新聞広告、デジタルサイネージの継続実施</li> <li>毎月のSNSでの発信による適正飲酒啓発強化</li> <li>社員に向けた適正飲酒e-ラーニングの対象範囲を2万人に拡大</li> </ul>

■サプライチェーンを通じたサステナビリティ活動の推進

重点項目	中期目標	2020年度の実績	評価	2021年度アクションプラン
<p>原材料調達・物流におけるサステナビリティ活動の推進</p>	<p>サプライチェーンにおけるサステナビリティ調達の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お取引先とサステナビリティ調達方針を共有した上で、アンケートを継続実施</li> <li>海外グループ会社とサステナビリティ調達方針を共有（グローバル調達会議の実施）</li> <li>物流協力会社と連携した「安全推進委員会」を通じた安全性推進のしくみ強化</li> </ul>	<p>●●</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サステナビリティ調達アンケートの継続実施</li> <li>環境アンケートの新規実施</li> <li>海外グループ会社の活動内容のヒアリング</li> <li>原料調達先に対する人権課題のヒアリング継続実施</li> </ul>
	<p>物流における安全性向上</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>物流における安全性推進の継続・強化</li> </ul>

## 自然と響きあう環境

目標達成：●●●● 目標達成70%以上：●●● 目標達成70%未満：●●

重点項目	中期目標	2020年度の実績	評価	2021年度アクションプラン
自然環境の 保全・再生	生物多様性の象徴である野鳥の保護活動をグローバルに展開	「猛禽類」を中心とした「天然水の森」での鳥類調査は、12箇所で開催し、猛禽類の繁殖環境・営巣環境に配慮した整備についても重点的森林に於いて実施中。	●●	生態系ピラミッドの頂点である「猛禽類」を中心に「天然水の森」での鳥類調査を引き続き実施しつつ、狩猟・営巣環境に配慮した総合的な森林整備を推進していく。「サントリー世界愛鳥基金」については、各種団体への助成を通じた日本国内外の野鳥保護活動への支援も継続的に進めていく。
	国内すべての「天然水の森」においてワシ・タカ類の営巣・子育てを実現海外における野鳥保護活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>「サントリー世界愛鳥基金」においては、助成を通じた日本国内外の野鳥保護活動への支援。</li> <li>「愛鳥活動」サイトの更新による情報発信の拡充。</li> </ul>		
	「天然水の森」の面積を、国内の自社工場で使用する地下水量を育む面積の2倍に拡大（12,000ha）	「天然水の森」では中長期ビジョンに基づき、間伐と搬出・作業道及び歩道開設・植生保護柵設置・土壌流失防止工・地域性苗木の育成と植樹等のさまざまな施策に加えて、林業技術者研修、山林の台風被害からの復旧にも取り組んだ。「育林材 <sup>※1</sup> 」の活用については、社内外で数多くの事例を展開しつつ、今後の展開についての強化集約の体制を確立しつつある。「天然水の森」協定面積の拡大については、2020年目標である中期目標を達成している。	●●	「天然水の森」ではより涵養力の高い、生物多様性豊かな森を目指す。具体的には、引き続き、間伐と搬出・作業道及び歩道開設・植生保護柵設置・土壌流失防止工・地域性苗木の育成と植樹等の施策に加えて、山地災害により強い森林育成に努める。「育林材 <sup>※1</sup> 」については、今後の活用をさらに推進する。
	水の大切さの啓発と価値の共有	<p>「水育（みずいく）」活動内容の充実、水や水を育む自然の大切さの啓発と価値の発信を強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水育「森と水の学校」計6回、188名参加</li> <li>水育「出張授業」計121校、9,451名参加</li> <li>ベトナム「水育」出張授業に約6,200名参加</li> <li>インドネシア「水育」出張授業に約3,900名参加</li> <li>タイの「水育」自然体験プログラムに約500名参加</li> </ul>	●●	<p>17年目を迎える「水育」活動内容充実、水や水を育む自然の大切さの啓蒙と価値の発信を強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン実施を本格化</li> <li>水育「森と水の学校」実施計画計74回、1,800名</li> <li>水育「出張授業」実施計画計210校、16,800名</li> <li>ベトナム水育をドンナイ省へ拡大</li> <li>インドネシア水育をジャカルタに拡大</li> <li>タイ水育 参加人数計画2,750名</li> </ul>
環境負荷低減	サントリーグループ <sup>※2</sup> の自社工場での水原単位を15%削減 <sup>※3</sup>	自社工場での水使用のさらなる削減（原単位：15年比17.0%削減）	●●●	製造設備・容器の洗浄や冷却に使用する水の削減
	サントリーグループ <sup>※2</sup> バリューチェーン全体のCO <sub>2</sub> 排出を30%削減 <sup>※4</sup>	バリューチェーン全体でのCO <sub>2</sub> 排出量のさらなる削減	●	容器の軽量化、再生資源の活用、工場の省エネ、国内最小電力量の自動販売機の積極導入など

※1 健全な森を育てるための整備で出てくる木材のことをサントリーでは「育林材」と呼んでいる

※2 サントリーグループ売上高（2015年）の95%以上を占める事業会社群（海外を含む）

※3 2015年における事業領域を前提とした原単位での削減

※4 2019年における事業領域を前提とした総量での削減

## 社会と響きあう文化・社会貢献

目標達成：●●●● 目標達成70%以上：●●● 目標達成70%未満：●●

重点項目	中期目標	2020年度の実績	評価	2021年度アクションプラン
幅広い文化・社会・学術貢献	財団活動支援を通じた貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナ感染拡大の状況下で、サントリーホールのコンサートWEB配信やサントリー美術館でのオンライン「まるごといちにちこどもびじゅつかん」開催</li> <li>・第42回サントリー学芸賞選考・贈賞実施、若手研究者助成実施</li> <li>・サントリー SunRiSE 生命科学研究者支援プログラムを立ち上げ若手研究者の研究支援を開始</li> </ul>	●●●●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公益財団法人サントリー芸術財団、サントリー文化財団、サントリー生命科学財団の活動支援を通じた文化・社会・学術貢献推進</li> <li>・デジタルサントリーホールの立ち上げなど、コロナ下でもオンライン活用も含めた取り組みを拡大</li> </ul>
地域貢献	自治体・NPOなどと連携した東北・熊本復興支援活動強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「サントリー東北サンさんプロジェクト」、「サントリー水の国くまもと応援プロジェクト」における文化・芸術・スポーツ活動による支援活動は新型コロナ感染防止に留意しながら規模を縮小して実施</li> <li>・7月の熊本豪雨に対して義捐金拠出および豪雨被災地域の小中学生向けに熱中症対策飲料提供等を実施</li> <li>・「サントリー地域文化賞」による地域文化顕彰による地域活動支援</li> </ul>	●●●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「サントリー東北サンさんプロジェクト」では新たに「みらいチャレンジプログラム」を立ち上げ、岩手県・宮城県・福島県の“地方創生”・“地元活性化”を支援</li> <li>・「サントリー水の国くまもと応援プロジェクト」においても次世代への震災記憶の継承を目指して「水の国くまもと未来予想図プログラム」を実施</li> <li>・「サントリー地域文化賞」による地域文化顕彰による地域活動支援実施</li> </ul>
社会貢献活動のグローバル展開	エリアにおける社会貢献活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベトナム、インドネシア、タイ中心に次世代環境教育「水育」実施</li> <li>・他エリアでの社会貢献活動の展開</li> </ul>	●●●●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア地域で次世代環境教育「水育」のエリア拡大</li> <li>・他エリアでの社会貢献活動の展開</li> </ul>
次世代育成支援	文化・スポーツ活動を通じた次世代育成支援強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化・スポーツ活動を通じた次世代育成支援プログラムの実施 コロナの影響でオンライン参加者も含めて約40,000名</li> <li>・チャレンジド・アスリートへの奨学金制度実施</li> </ul>	●●●●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さらにオンラインも活用して文化・スポーツ活動を通じた次世代育成支援プログラムの拡大実施（参加者70,000名）</li> </ul>
従業員の社会貢献活動参加支援	従業員が社会貢献活動に積極的に参加できるような基盤づくりと推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア情報サイト「ボランティアーズ」の充実</li> <li>・理念浸透施策 (Global Action for Water・Global Action for humanity) に合わせて春は「水」、秋は「人」をテーマに国内外でボランティア活動を推進。</li> <li>・新型コロナ感染防止のため、在宅で参加できるボランティアプログラムを拡充</li> <li>・年間参加2,030名（日本国内）</li> </ul>	●●●●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア情報サイト「ボランティアーズ」のさらなる充実</li> <li>・理念浸透施策 (Global Action for Water・Global Action for Humanity) に合わせて春は「水」、秋は「人」をテーマに国内外でボランティア活動を推進。</li> <li>・新型コロナ感染防止のため、在宅で参加できるボランティアプログラムをさらに拡充</li> <li>・年間参加2,000名（日本国内）</li> </ul>



## 従業員と響きあうダイバーシティ経営

目標達成：●●●● 目標達成70%以上：●●● 目標達成70%未満：●●

重点項目	中期目標	2020年度の実績	評価	2021年度アクションプラン
人権の尊重	人権尊重を第一とする組織風土の醸成とグループ全体での人権マネジメントのしくみ構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産工場にて人権セミナーを実施した。(89名参加)</li> <li>工場課長研修も加え、新任役員／新任マネジャー／新入社員などの階層別人権研修を計画通り実施した。</li> </ul>	●●●●	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所別に同和問題をテーマとした人権セミナーを実施予定。(6事業所を予定)</li> <li>新任役員／新任マネジャー／工場課長／新入社員の階層別人権研修を継続実施する。</li> </ul>
人材育成	人材育成システムのしくみ強化と従業員の「やってみなはれ」の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種の階層別プログラム内に、創業の精神を学ぶセッションを組み込み、創業家との対話やサントリーの歴史をベースとするワークショップを通して、自分の言葉で創業の精神を語るプログラムを実施。</li> <li>「寺子屋」活動の活性化 自ら学び・教えあう風土を醸成するため、ターゲットを決めたイベントを多数実施した結果、参加者数:13,902名(前比503%)・祭数:177(前比145%)</li> </ul>	●●●●	<ul style="list-style-type: none"> <li>階層別研修等での研修ウェビナー化による効率化促進</li> <li>国内外グループ会社への理念共有の仕組みづくりの継続。</li> <li>社内の学びプラットフォーム「寺子屋」活動の活性化による「自ら学ぶ・教えあう・つながる」風土醸成</li> </ul>
ダイバーシティの推進	多様な価値観や発想を受け入れ、活かすことにより、より大きな価値を創出するダイバーシティ経営の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>営業部門の全マネジャー(約500名)に対して、アンコンシャスバイアスをテーマとしたコミュニケーションスキルアップ研修を実施。</li> <li>LGBTQ: インクルーシブな風土醸成にむけた継続的な取り組み(LGBTQに関する理解を深めるセミナーなど)。</li> <li>シニア活躍: 企業の枠を超えたオープンなキャリアパス構築の支援施策として、地方創生人材施策(内閣府連動)をスタート。</li> <li>グローバル: 海外グループ会社と連動し、設定テーマへの取り組み(国際女性DAYイベント)。</li> <li>ジェンダー: 2030年女性管理職比率30%に向け部門課題に応じた取組スタート(2020年管理職比率10.5%、前年+0.1%)。</li> <li>ハンディキャップ: コラボレイティブセンターの業務・エリアの拡大展開。</li> </ul>	●●●●	<ul style="list-style-type: none"> <li>2030年女性管理職比率30%に向け、部門課題に応じた、具体的活動の実施。</li> <li>ダイバーシティ&amp;インクルージョンの一人ひとりの理解・考動に向けて、研修などを通じてインクルージョン活動を強化。</li> <li>海外グループ会社と連動し、グループ共通の方針策定・活動を推進。</li> </ul>
ワークライフバランスの推進	働き方の革新と一人ひとりが能力を発揮できる職場づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>働き方改革推進リーダー制度を基盤とした取り組みを進め、ナレッジ展開の加速、RPAの活用推進を実現した。</li> </ul>	●●●●	<ul style="list-style-type: none"> <li>働き方改革推進リーダー制度を基盤に、働く人のモチベーション(面白さ)を高める取り組みを進める。</li> </ul>

サントリーが考えるサステナビリティ経営

## サステナビリティ情報の掲載方針

サントリーグループはWEBを通じて、サステナビリティのさまざまな取り組みをお伝えしています。

### サントリーグループサステナビリティサイト2021

本サイトは、サントリーグループが企業理念に掲げる「人と自然と響きあう」の実現に向けて重点的に取り組んでいる活動やサントリーらしい取り組みの情報を網羅的に掲載しています。

サステナビリティ関連データ集やグループ会社独自の取り組み、社会との対話などの情報も充実していますので、目的に応じてご覧ください。

#### ■対象範囲

##### 対象組織

サントリーホールディングス（株）を含む国内・海外グループ会社303社

- ・環境データは、サントリーグループ売上高の9割を占める事業会社群が所有する国内生産26工場、海外生産64工場
- ・人事データは、サントリーホールディングス（株）、サントリー食品インターナショナル（株）と雇用契約を結ぶ社員を対象

##### 対象期間

データは2020年1月1日～2020年12月31日の実績です。活動については、直近のものも含めます。

##### 参考にしたガイドライン

- ・GRI「サステナビリティ・レポーティング・スタンダード」
- ・ISO26000（社会的責任に対する手引）
- ・世界経済フォーラムの共通測定基準

#### ■発行

2021年7月（次回は2022年6月発行予定）

